

市指定文化財<史跡>

きくちためくにこうほ 菊池為邦公墓

指定日 昭和49年4月1日

所在地 菊池市七城町亀尾 碧巖寺



この墓は為邦の遺徳を忘れないように碧巖寺に分墓したものである。本墓は江月山玉祥寺(菊池市玉祥寺)にある。

為邦は菊池氏19代持朝の長子で幼名を二郎といい、永享2年(1430)に生まれた。文安3年(1446)、17歳にして20代惣領となり肥後守護職を務め、才知に優れ、儒学・禅道の奥義を極め、朝鮮、明国との交易を図り文武の名将といわれた。このことは21代重朝にも受け継がれ、歌の道をはじめ文化の花開き、「重朝の勧学」と菊池地方勧学の精神をつくった。「この父あってこの子あり」といえよう。

為邦は37歳で肥後守護職を長子重朝に譲り、この前川の山紫水明の地を選び、僧庵茶室を造って「尖活仍勢居士」と号して碧巖録を勉強した。

禅の道、碧巖録の講義には、菊池一族の武将が馬の轡くつわを並べて聴いたという。

長享2年(1488)卒去、享年59歳。